

学びの広場

2018

【問い合わせ】教育課 学校教育係 ☎(83)7023
教育課 生涯学習係 ☎(83)7021


第70回人権週間 12月4日(火)～10日(月) みんなで築こう 人権の世紀

本紙5面にもありますように、12月4日(火)から1週間
間は人権週間です。法務省では「考えよう 相手の気持ち
未来へつなげよう 違いを認め合う心」を啓発活動重点
目標に決めました。

そこで、教育委員会では12月15日(土)に「子どもの人
権」に焦点を当てた人権教育研修会(兼)町民大学を開催
します。ネグレクト(育児放棄)や児童虐待、子どもの自
殺、いじめ問題など子どもを取り巻く人権問題が発生して
います。子どもが一人の人間として最大限に尊重されるよ
う、この問題についての関心と理解を深めましょう。

次の作文は平成28年度全国中学生人権作文コンテストで
入賞した須田さんの「子どもの人権」に関する作文です。
ぜひ、ご一読ください。

**人権教育研修会(兼)
第4回町民大学**
あなたにあえてよかった
～子どもはかけがえのない宝もの～



日時：12月15日(土)
午前10時～正午
場所：町民文化センター 展示ホール
講師：ノンフィクションライター
自己尊重トレーニング・トレーナー
北村年子さん
申し込み：教育委員会生涯学習係
☎(83)7021

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催
第36回全国中学生人権作文コンテスト法務大臣政務官賞

「小さな人権」 福島県須賀川市立第二中学校1年 須田 白菜子

私には、心に決めているこ
とがあります。それは、どん
なに小さな子供でも、大人と
同じ条件で何かしようとして
いる時は大人と同じように扱
おう、というものです。それ
は、私が小さなきとき、あるス
ーパーで教えてもらったこと
です。

私が五歳の頃の話です。
母が不在のある日、父に連
れられて幼い私と二人の妹は
スーパーに買い物へ出かけま
した。買い物を終えたその
時、母から頼まれていたティ
ッシュペーパーボックスを買
い忘れたことに父は気づきま
した。ところが、折悪く、小
さな妹がトイレに行きたいと
ぐずり始めたのです。
「日菜子、お父さんの代わり
にティッシュボックスを買っ
てくることはできるかい。」
困った父は私を頼るようにな
りました。

男性です。大人ばかりの列に
入ると、五歳の私はとても小
さくて、不安気に見えたそう
です。私は私で、トイレから
戻ってきた父と妹たちがレジ
から少し離れたところで私を
見守っているのを見つけ、少
し嬉しくなって手を振ったの
を覚えています。

しばらく待って、私の前に
いた女性の会計が終わわり、私
はよいしょ、とボックスを抱
え直し、一歩前に出ようとし
ました。すると、私の後ろの
男性が自分のカゴをポンとレ
ジ台に置くとレジの人に声を
かけたのです。私は慌てて自
分の番だと主張しようと、あ
の、と言いました。しかし、
レジの人はそのままその男性
の会計をしようとしていま
す。私が小さくて見えなかつ
たのかもしれないし、前後
のどちらかの大人のひと一緒
だと思いついたのかもしれない
です。どちらにせよ、レジは
混んでいて、周りの人たちが
私のことなど気にも留めてい
ない様子でした。私はもう一
度、あの、と声を出しました。
ようやく、私の存在に気づい
たらしいレジの人は、
「ほらそこにいると危ない
よ、早くお母さんのところに
行ってね。」
と言うのです。為す術もなく
周りを見回し、それから遠く
にいる父に目で助けを求めよ

うとしました。しかし、父も
何が起きているのか気づい
ていないようです。この
ままでは私の順番は永遠に飛
ばされてしまう。なんだか悔
しくなると、本心に泣きそう
になったその時、
「お客様の順番を間違えてい
ます。」

というはつきりとした言葉が
聞こえました。そのお店の名
が入ったネームプレートをつ
けた年配の方でした。続けて
その人は、私の後ろの男の人
に向かつて、
「すみません、お待たせして
申し訳ありませんが、こちら
のお客様を先にさせていただ
いてよろしいでしょうか。」
ときつちりと言ってくれまし
た。
男の人は、あ、ああ、すみ
ません、どうぞどうぞ、と少
しきまり悪そうに言いまし
た。どうやらマネージャーさ
んらしきその人は、次に、私
に掌を向けながらレジの人に
「こちらのお客様に謝罪しな
さい。」
と、静かに告げました。そし
て、五歳の私に
「失礼な対応をして、誠に申
し訳ございませんでした。」
と自ら深々と頭を下げてくれ
たのです。

ただ、周りの、レジに並んで
いた人たちが大きな拍手をし
ていたことはしっかりと記憶
に残っています。

あの時、あのマネージャー
さんは、五歳の私のことを、
年齢や性別に関係なく、一人
のお客、一人の人間として扱
ってくれたのだと思います。
考えると、店のお客さんの前
で従業員を叱る、というのは
普通、避けたいことに違いあ
りません。でも、それより
も、私の人権を大切にしてく
れた。そのことを、私は今も
事あるごとに思い出ししてい
ます。

子供だから、その存在に気
づかなくても仕方ないだろ
う。子供だから、こちらのミ
スもごまかせるだろう。子供
だから、こちらが謝らなくて
も言いにくくてすまることが
できるだろう。

それは全て間違いだと思
います。

五歳のある日、私があのマ
ネージャーさんにどんなに救
われたか、その日のことがど
んなに心に刻まれたか。

私は小さな子供たちの尊厳
と権利の守れる大人になりた
い、と思っています。

